

令和5年度 第2回 安曇野市農業農村振興計画推進委員会

令和5年9月25日
安曇野市役所 大会議室

1 開会

- ・ 会長：委員の過半数が出席しており、委員会は成立要件を満たしている
- ・ 今年度の農業は春先は霜で被害を受け、夏は猛暑で生育が悪かった。

2 委員の変更

- ・ 南安曇高等学校の今溝氏から新任の挨拶

2 協議事項

(1) 実施計画の改善点について

- ・ 事務局より説明

<質問意見>

- ・ 小林委員
P8の「直売所を活性化させ、売上をあげる」とありますが、具体的な方向性やイメージがあったほうが取組みやすいと思うが、どのようなものか
- ・ 事務局
出荷農家の減少、高齢化が大きな課題だが、改善可能なものでは、同じ時期に同じ商材が重なってしまうことがある。夏野菜の時期には、キュウリやナスが大量に店頭に並んでいる。幅広い農家の参加と品目の調整が課題である
- ・ 小林委員
品目数を増やすという指標を設定することも考えられるか
- ・ 事務局
計画がはじまっているので指標設定までは考えていないが、来年度の中間見直しのなかで具体的に検討していきたい
- ・ 事務局
昨年度、直売所の関係者で群馬県に視察研修に行ったが、ポストレジを使って売れ筋を管理したり、同じ品目でも時期をずらすなどの工夫を行っていた。直売所には、そんな事例も踏まえ検討をお願いしたい。
- ・ 小林委員
「活性化」だと抽象的なので、お考えがあるなら追記して頂いたほうが、皆わかりやすいと思う

- ・ 会長：今後は、表現方法をもっと具体的にしていきたいと思います

(2) 第3次計画の重点プロジェクトの見直し

- ・ 事務局より説明

<質問意見>

- ・ 津村委員

重点プロジェクトの農業関係人口の拡大はぜひ進めて欲しい。

特に、次世代を担う子供とその親世代が農作物をつくる機会を増やして欲しいが、農政だけでは推進できない。教育委員会との連携が非常に重要になる。そして教育長の考え次第で内容も変わってくる。以前、三郷小学校で娘が体験したがアイガモ農法で米を作ってカモの肉も頂いて収穫祭をする取組みがあったが、保護者からも色々な意見が出てきた。学校や教育長の考え次第で方針が変わる。教育委員会との連携が重要だということをここでは強調したい

- ・ 事務局

現在、取り組もうとしているのは子ども園や幼稚園で園庭にたらいを置いて、そこに田んぼをつくるようなこと。また、手作り弁当では、JAの協力のもと、リクエストに応じて地元食材の提供している。教育部とはタイアップしながら取り組んでいる。小学生では遅いのではないかとということで、認定こども園、幼稚園でも開始した。地域おこし協力隊と保育士が連携して進めている。教育部と連携は進めるが、予算が絡む内容については市長部局と教育部局においては理事者が違うため、事務レベルでは難しい面があるが、うまく調整していきたい。

- ・ 会長

今溝先生、学校の取組はどのようなものかご紹介いただきたい

- ・ 岩水委員

農業高校の全国大会があり、そこの講演で研究者の中村けいこ先生が、農業の持つ力はすごいと力説された。食糧安全保障上も重要であるだけでなく、子どもを育てる力があると。人間の活動が環境を破壊し、温暖化が進んでいる。人間も一生命体、生物であることを再認識させる力が農業にはあるとのこと。うちの高校の生徒も農家の子弟ということは少なくなったが、農作物を育てる体験で非常に感動している。人の手伝いも自然にし始める。農業は教育に活用できると感じている。

- ・ 小林委員

重点プロジェクトの見直しについて、以前から必要だと考えていたが、とても整理され

たと感じた。ただし、重点 1 の農業者の収入につながっていくという目標について、「地域貢献型のイベント」を行うとあるが、具体的に農産物の PR に向けたイベントだということを明確にしたほうがよいかと思った。

- ・ 平田委員

南農高校で、無肥料と化学肥料と下水の汚泥肥料で農作物を作ったというニュースをみた。詳しく聞きたい。環境にも良い試みなので、進めて欲しい。

- ・ 今溝委員

汚泥は廃棄物なのでセメント会社を買っていただくことになっている。それに 1 億円かかっていると聞いて、何か農業に使えないかと 5 年くらい前から試行錯誤してきた。汚泥には有害物質が含まれているため、鉢に入れて 3 年間、農作物を試験的に栽培してみたところ、うまく配分すると生育がよくなることがわかった。手ごたえがあったので、産業廃棄物の投機にならないような手続きを踏んで、この 4 月から実験を開始した。思ったよりも汚泥が綺麗で安曇野市民が水を綺麗に使っているという解釈もできる。安全性を確認できたら、実用化も研究し、肥料として登録していきたい。化成肥料が値上がりしているので、汚泥肥料のほうが優位になる可能性もある。

- ・ 会長

貴重な意見感謝する。本日の次第は以上で終了した。

- ・ 事務局

今年度の検討は今回で終了になる。来年度の 7 月末頃に、開催予定になっている。引き続き、協力をお願いしたい。